

令和4年8月31日
民生文教常任委員会
所管事務調査説明資料
こども・健康部 ほいく課
教育委員会管理部 管理課

市立幼稚園・保育所のあり方について

3 市立岩園幼稚園における3歳児保育の試験的实施検証報告等について

(1) 3歳児保育の試験的实施検証報告について 資料2

- 行政区別・年齢別人口調べ 資料3
- 市立幼稚園の園児数の推移 資料4
- 市内幼稚園の入園児数の推移 資料5

(2) 市立岩園幼稚園での3年保育の実施について 資料6

4 その他

市立岩園幼稚園における3歳児保育の試験的実施検証報告書

令和4年8月

芦屋市教育委員会

目次

1. 3歳児保育試験的実施検証の趣旨	1
2. 検証期間	1
3. 実施体制	1
4. 検証内容	1
5. これまでの経過	3
参考 市立岩園幼稚園3歳児保育検証「教育・保育の内容について」	5
1 3歳児保育の実施に向けた取組	6
(1) カリキュラムの作成	
(2) 3歳児保育の取組とカリキュラムの見直し	
(3) 令和4年度のカリキュラムと今後の活用	
2 幼児の心身の育ち	11
(1) 3歳児の入園当初と3学期末との比較	
(2) 3歳児保育（進級児）と2年保育（新入児）との比較	
(3) 令和3年度の4歳児と令和4年度の新入4歳児（2年保育児）との比較	
(4) 4歳児、5歳児の育ちへの影響	
3 保護者アンケートの結果	16
(1) 令和3年度末アンケートより	
4 市内の教育・保育施設との連携	20
5 特別支援教育の取組	21
6 3歳児保育の試験的実施を通して	21

1. 3歳児保育試験的実施検証の趣旨

教育委員会では、これまで市長部局とともに喫緊の課題であった待機児童解消と将来の少子化を見据え、すべての就学前の子どもたちにとって最善の利益につながるよう、平成29年度から「芦屋市立幼稚園・保育所のあり方」をオール芦屋で取り組んできました。

そのような中、令和元年8月2日の総合教育会議において、いとう市長より市立幼稚園1園での3歳児保育の試験的実施の提言を受け、教育委員会では、これまでの「芦屋市立幼稚園・保育所のあり方」を踏まえ、慎重に協議、検討を重ね、令和3年4月から市立岩園幼稚園で3歳児保育を試験的に実施することを決定しました。

これまでの間には、「芦屋市立幼稚園・保育所のあり方」の整備が着実に進むとともに、令和元年10月からは「幼児教育・保育の無償化」がスタートし、就学前の子どもたちの就園先にも変化が見られるなか、令和3年4月から試験的実施を開始しました。

試験的実施では、何よりも幼児の心身の育ちを第一に考え、教育課程の編成、教育内容、指導方法において3歳児の発達を助長させるものであったかを常に考え、適宜、修正を加えながら取り組み、検証においてはそれらの取り組みを基に結果を取りまとめ、また、市立幼稚園での3歳児保育に対するニーズを分析しました。

2. 検証期間

令和3年4月1日から令和4年7月19日（1学期終了まで）

3. 実施体制

- (1) 学級編成：1クラス
- (2) 定員：25人

4. 検証内容

(1) 3歳児保育に対するニーズについて

① 岩園幼稚園 応募人数：定員25名

- ・令和2年10月募集時点 44名 → 令和3年度入園 25名
- ・令和3年10月募集時点 21名 → 令和4年度入園 23名

② 市立認定こども園 3歳児園児数（1号）応募人数

定員：精道20名、西藏30名

- ・令和2年10月募集時点 精道34名 → 令和3年度入園 20名
西藏43名 → 令和3年度入園 30名
- ・令和3年10月募集時点 精道20名 → 令和4年度入園 18名
西藏31名 → 令和4年度入園 27名

③ 3歳児保育に対するニーズの分析について

初年度においては、定員を超える応募があり抽選を行いました。2年目は定員内の応募数となりました。

2年目に応募数が減少した要因としては、前年度の状況から抽選を敬遠されたことや幼児教育・保育の無償化により他園を選択されたことのほか、児童数の減少などの要因が考えられます。

しかしながら、現在の岩園幼稚園圏域の児童数や周辺の就学前施設の状況、幼児教育・保育の無償化等を総合的に勘案すると、試験的实施においては保育ニーズの高まりや多様な選択肢があるなかにあっても、市立幼稚園の3歳児保育のニーズを一定満たした結果と言えます。

(2) 教育・保育の内容について

3歳児保育の試験的实施にあたり、3歳児4月から5歳児3月までをI期から15期までに分けてカリキュラムを作成し、実践から見えた課題に対応できるよう、適宜、見直しを加えながら取り組んできました。

このカリキュラムの作成により、3歳児の援助や環境構成を考えることに止まらず、4歳児、5歳児にとっても、発達段階に応じたものとなっているか、改めて園全体の環境構成を見直すことにつながりました。

3歳児カリキュラムは、他の市立幼稚園の4歳児、5歳児の保育や、3歳児親子ひろば「さんさんひろば」などにも広げ、活用していきたいと考えています。

幼児の心身の育ちでは、友達との関わりから相手の話を聞いたり、自分の思いを伝えようとする力が大きく伸びるなど3歳児の1年間の成長に加えて、今年度には新たに新入児が同じクラスに入ることで、新入児のお手本になりながら、一緒にルールを守ったり、協同して課題に取り組んでいました。

4歳児、5歳児も、3歳児がいることで4歳児は3歳児には優しく接し、5歳児には甘え、5歳児は3歳児と4歳児に対して、それぞれ出来るところは見守りながら、出来ないところは手伝うなどの姿が見られました。

このように3歳児保育の試験的实施では、3歳児の成長のみならず、4歳児、5歳児にも波及し、環境構成を4歳児、5歳児でも見直すきっかけにもなるなど、園全体の教育の質の向上につながったと考えています。

また、市立幼稚園、認定こども園、保育所では、公開研究会や参観を通じて意見交換を行い、職員は多くの気づきを得ました。また、私立の幼稚園、認定こども園、保育園も参加した研修会も開催し、同じテーマで一緒に学ぶことができました。

市立幼稚園に求められる役割の一つとして、市内の幼児教育のセンター的役割があげられます。岩園幼稚園の3歳児保育の実践で得られた知見を、市内すべての就学前教育・保育施設に向けて発信し、これまで以上に質の高い教育、保育の提供が

できるよう、市立幼稚園が幼児教育の中核となり、けん引していかなければならぬと認識しています。

(市立岩園幼稚園3歳児保育検証「教育・保育の内容について」: P. 5参照)

5. これまでの経過

□令和元年度

- 令和元年 6月11日 いとうまい市長就任
- 令和元年 8月 2日 総合教育会議
市長より市立幼稚園1園で試験的実施の検討を依頼される。
- 令和元年 8月 2日 教育委員会(第8回定例会)
「市立幼稚園での3年保育の実施について」を審議
3年保育を幼稚園1園において令和3年4月1日から試験的に実施することを決定。
どの幼稚園で、何人規模で実施するかについて事務局で資料を作成し、後日協議。
- 令和元年 8月26日 教育委員会(第10回臨時会)
「市立幼稚園での3年保育の実施について」を審議し、以下を決定。
・令和3年4月1日開始(令和2年10月園児募集予定)
・実施園 岩園幼稚園
・学級編制 1クラス
・定員 25人定員
- 令和元年 9月 4日 民生文教常任委員会・所管事務調査にて報告

□令和2年度

- 令和2年10月 1日 令和3年度入園募集開始(10/8締め切り、10/15抽選)
- 令和2年10月30日 総合教育会議
令和3年度入園募集の応募状況等を報告

□令和3年度

- 令和3年 4月 1日 岩園幼稚園での3歳児保育の試験的実施開始
- 令和3年10月 1日 令和4年度入園募集開始
- 令和4年 3月17日 3歳児保育報告会

□令和4年度

- 令和4年 7月28日 教育委員会 試験的実施検証報告書(原案)について審議
- 令和4年 8月25日 総合教育会議 試験的実施検証の報告について
教育委員会 試験的実施検証報告の結果について
- 令和4年 8月31日 民生文教常任委員会・所管事務調査にて報告



市立岩園幼稚園 3 歳児保育検証
「教育・保育の内容について」

1 3歳児保育の実施に向けた取組

(1) カリキュラムの作成

カリキュラム作成のポイント

- ・ 3歳児4月から5歳児3月までを、I期から15期までに分けて、連続した36カ月カリキュラムを作成する。
- ・ 個の成長と集団としての育ちが図られるよう、目標を集団と個人で考える。
- ・ 地域や家庭で子ども同士が交わる機会が少なくなっていることを受けて、幼稚園では、同年齢や異年齢の関わりを大切にする。
- ・ 基本的な生活習慣（持ち物の始末・片付け・排泄等）は、個人差が大きいことを踏まえ、自分でしようとする気持ちを大切に援助する。
- ・ 自然との関わりや実体験を大切に、自ら遊びたいと思うような環境構成を工夫する。
- ・ 3歳児が安心して遊べるように、保育室前に3歳児専用砂場を配置し、3歳児の遊ぶ空間を作る。

(2) 3歳児保育の取組とカリキュラムの見直し

① 実践から見えてきた課題

<1学期の目標>

I期(4月～5月) 集団:先生や園に親しみをもち、安心して過ごす

個人:先生や友達との出会いを楽しむ

II期(6月～8月) 集団:先生や友達に親しみ、安心して過ごす

個人:幼稚園の生活の仕方に慣れ、園生活の楽しさを感じる

- ・ 登園後、自分の荷物の整理や着替えなど身の回りのことを終えて外に出るまでに時間がかかり、すぐに片付けの時間になってしまい、3歳児は存分に遊ぶことができない。(片付けの時間を4歳児、5歳児と同じにしている。)身の回りの始末や着替えることに疲れてしまい、生活の流れが途切れる。
- ・ 約半数がオムツをしているので、トイレに行きたがらず、みんなでトイレに行くことができない。濡れていても黙っているのが、個別対応になる。
- ・ 外遊びに誘っても部屋から出てこない子や、みんなに絵本を読もうとしても、前に出てきて立ったまま座ろうとしない子がいる。興味・関心において、個人差が大きい。

- ・ テーマを決めて絵を描こうとしても、テーマを意識するのではなく絵の具を使う楽しさへと変わっている。テーマに沿って描くことが、カリキュラムとのずれを感じる。
- ・ 好きな遊びの後、保育室に入って直ぐに律動などを始めようとする、疲れもあり教師のところに来て甘える幼児がいる。「静」の時間をどうつくるかが、課題である。

環境・援助の見直し

ア 個々に寄り添う

- ・ 登園後の、身の回りのことについて、4歳児のように全てできることを求めず、自分でしようとする気持ちを認めながら、少しずつできることを増やしていく。
- ・ 好きな遊びを、3歳児は長く取り、ゆったりとした時間の中で、それぞれが満足するまで遊べるようにする。また片付けも、早く片付けさせようとするのではなく、それぞれが納得して片付けられるようにする。
- ・ 保護者に呼び掛け、できるだけオムツではなくパンツにしてもらおう。失敗しても構わないという雰囲気を大切にする。

イ 形にしようとしな

- ・ 絵や制作では、過程を楽しめるようにする。
- ・ 感触（感覚）遊び（水が気持ちいい・泡はぬるぬるするなど）を大切にする。

ウ 目で見てわかる援助

- ・ みんなに絵本を読む時、座らないで前に出てくる子も、画用紙で大きな卵を作り殻が割れたら本が出てくるようにすると、座って楽しみに待つようになる。
- ・ 誕生会や普段の保育の中でも、ペープサート（紙人形劇）を使うと集中してよく話を聞く。

<2学期の目標>

Ⅲ期(9月～10月) 集団:体を動かして遊ぶ楽しさを感じる

個人:先生や友達がすることに興味をもち、自分もやってみようとする

Ⅳ期(11月～12月) 集団:気の合う友達に親しみをもち、一緒に遊ぶことを楽しむ

個人:身近な環境に目を向け、自分の好きな遊びを見付ける

- ・ 運動参観日（10月）に向けての遊びで、保護者に見てもらうことを意識して遊ぼうとすると気持ちが続かなくなる。
- ・ 3歳児用の砂場には、枠に高さがあるため、遊びが砂場の中に限られてしまう。

環境・援助の見直し

ア 遊びと行事をつなげる

- ・ 運動参観日で見てもらふことに重点を置くのではなく、幼児が好きな遊びをつなげて見てもらふようにする。普段の遊びと行事がつながるように考える。

イ 3歳児の砂場を変える

- ・ 3歳児用の砂場の周りを低くし、境界線をなくすことで砂場と園庭を自由に行き来ができるようにし、他の遊びとつながりやすくする。

<3学期> 目標

V期(1月～3月) 集団:いろいろな遊びに興味をもち、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ

個人:自分でできたことを喜び、やってみようとする

- ・ 生活発表会に向けての劇遊びでは、保護者や他のクラスの幼児に見てもらふことよりも、目の前の毎日の遊びを楽しもうとしていた。

環境・援助の見直し

ア 保護者も一緒に

- ・ 発表会前の参観日には、遊びを見せるだけでなく、保護者も一緒に遊びに入ってもらふ。
- ・ その日、その時を存分に楽しみながら、お話の世界を広げていく。

② カリキュラムの見直し

ア 見直しにあたってのポイント

- ・ 3歳児が安心して遊ぶためには、「3歳児の遊ぶスペースを作る」、「仕切りを作る」だけでなく、園全体の生活の流れが3歳児にとってどうなのかを考えなければいけない。

例えば、3歳児の保育室前の専用の空間で遊ぶ子が多かったが、そこがよくて遊んでいたのか、そこにしかいられなかったのか、3歳児の発達段階を理解することが必要である。

- ・ 4歳児の生活の流れに3歳児を当てはめようとするのではなく、3歳児を2歳児の育ちから見なければいけない。

イ 見直した箇所 (内容・環境構成)

○1学期 [Ⅰ期 (4月～5月) Ⅱ期 (6月～8月)]

	変更前	変更後
変更点	草花や小虫を見て、思ったことや感じたことを身体で表現したり、 <u>描いたり作ったりする</u>	草花や小虫を見て、思ったことや感じたことを身体で表現する
	描いたり作ったりする	<u>Ⅰ期からⅡ期に移動</u>
	クレパスや絵の具の <u>使い方を知る</u>	クレパスや絵の具を使って自分の思いのまま描く クレパスとのりを使って遊ぶ
	4歳児、5歳児と遊ぶ機会をつくり、 <u>異年齢児と一緒に遊ぶ楽しさ</u> を味わえるようにする	<u>Ⅱ期からⅤ期へ移動</u> Ⅴ期に4歳児、5歳児と関わりながら、進級への憧れの気持ちが高まるよう支えていく
追加点	発達段階にあった遊びを存分に楽しめるように、3歳児だけのコーナー作りを工夫する	
	3歳児に合った生活リズムを考え、静と動も考慮しながら1日の生活の流れを組み立てる	

○2学期 [Ⅲ期 (9月～10月) Ⅳ期 (11月～12月)]

	変更前	変更後
変更点	いろいろな遊びを自分からやってみようとする	「 <u>自分のやりたい遊びを繰り返して楽しむ</u> 」
追加点	話をしたり、聞いたり遊んだりして、そばにいる友達との関わりを楽しむ	
	自分の思い通りにはならず、友達にも思いがあることを感じる	
	空き箱や廃材などの素材を使って遊ぶことを楽しむ	

○3学期 [Ⅴ期 (1月～3月)]

追加点	自分の知っている言葉でやり取りしたり、必要なことを伝えていこうとしたりする
追加点	4歳児、5歳児への憧れを感じながら生活する

(3) 令和4年度のカリキュラムと今後の活用

令和4年度の3歳児カリキュラムは、令和3年度の実践から見直したものを実施した。

4歳児については、1学期（Ⅵ期・Ⅶ期）の「ねらい」と「内容」を2年保育児（新入児）と3年保育児（進級児）に分けて作成した。

令和4年度は、このカリキュラムに基づき保育を進め、日々の保育を進めながら見直しを行っていく。

3歳児の援助や環境構成を考えることで、4歳児、5歳児にとっても、発達段階に応じたものになっているか、改めて園全体の環境構成を見直すことにつながった。

今後、3歳児カリキュラムを他の市立幼稚園の4歳児、5歳児の保育や、3歳児親子ひろば「さんさんひろば」などにも広げ、活用していく。



2 幼児の心身の育ち

幼稚園教育要領の5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の内容を、3歳児の心身の育ちを領域ごとに目標を定め、それが達成できているかどうかを一人ひとりについて評価した。

	令和3年度	令和4年度
3歳児	A：入園当初、A'：3学期末	
4歳児	B：2年保育児	C：進級児（3年保育児） D：新入児（2年保育児）

(1) 3歳児の入園当初と3学期末との比較

【AとA'の比較】

- ・ 遊びの中での主体性（自分から～する）を持ち、生活の中での身辺自立（「持ち物を所定の場所に片付けられる」「園のトイレで自分で排尿ができる」）がほとんどの幼児ができるようになった。
- ・ 人間関係、言葉、表現は、絡み合いながら成長している。
「先生に共感されたり認められたりすることをうれしく思う」、「先生と一緒に考えようとする」など、まずは、先生との信頼関係ができ、それが安心感となり幼稚園生活を楽しむようになった。
- ・ 「友達に親しみをもつ」、「友達と一緒に遊ぶことが楽しいと感じる」、「友達に自分の思っていることを伝えようとする」が大きく伸びている。友達との関わりの中で「いれて」「いいよ」など、自分が言ったことに友達が返してくれるのがうれしい時期である。自分の世界から、友達と共に遊ぶ楽しさを感じ始め、友達に伝えたいという思いから、言葉の力が伸びた。
- ・ 「友達の話を知ろうとする」、「先生の仲介があれば友達に自分の考えを話せる」、「自分から友達に話をする」などが、ほとんどの幼児ができるようになった。
- ・ 更に、友達との関わりの中で、「思いが伝わらない葛藤を味わう」、「友達のうれしい気持ちや悲しい気持ちを知る」、「友達との感情の行き違いや自他の欲求の対立を感じる経験をする」など、少しずつ相手の思いに気付くようになっていく。
- ・ 環境（自然との関わり）では、身近な自然物や事象に興味をもち、遊びに取り入れたり、虫と触れ合ったり、花や野菜の成長を見たりすることで、「心を動かす」、「先生と一緒に毎日世話をする」が伸びている。生き物（アゲハ・オタマジャクシ・カブトムシ等）を保育室で育てることで、世話を喜んでするようになる。世話がしたくて、身支度を急ぐようになった。

考 察

幼児が色々な遊びが体験できるよう環境構成を工夫した。その環境に対して関わるのは幼児であり、それぞれが自分のペースで、遊びを広げていく。

もちろん、そこには、教師や友達が存在が大きく関わっている。幼児が心ゆくまで試したり満足するまで遊んだりできるよう、ゆったりとした雰囲気や時間配分を心掛け、また、失敗しても構わない環境や声掛けをし、自分であろうとする気持ちを支えてきた。それが一人一人の成長につながったと考えられる。

(2) 3歳児保育（進級児）と2年保育（新入児）との比較（令和4年度1学期）

【CとDの比較】

<同じ空間で遊ぶ>

- ・ 進級児は、昨年度の4歳児、5歳児の姿を思い出してしようとする。
- ・ 新入児は、周りの友達をしている遊びを次々しようとする。
- ・ 昨年度の4歳児、5歳児がしていた鬼ごっこの「鬼決め」を進級児がしようとする。
- ・ 新入児は進級児に教えてもらいながら一緒に入る。鬼を決めることはできなかったが、新入児は進級児と同じ空間でいることが楽しい様子である。

<ルールを守る>

- ・ 進級児は、おもちゃを順番交代や一緒に使える。遊びや片付けなどで、ルールの意味が分かり、守ろうとする気持ちが感じられる。
- ・ 新入児は、したいことが出てきて、朝、保育室に入る前に遊びだす、片付けをしない。納得するまで遊ぼうとするなど、3歳児と似た姿が見られる。
- ・ 新入児が靴箱に靴を入れるのを忘れており、教師が声を掛けてもしようとしなない。それを見ていて、進級児がさりげなく入れていた。

<協同する>

- ・ 進級児が、新入児に持つ位置や持ち方を教えながら、4人で1台の机を運ぶことができた。

<誘う>

- ・ 好きな遊びからなかなか戻ってこない新入児に進級児が呼び掛ける。呼

びかけられてもすぐには入ってこない新入児もいる。進級児は、みんなで遊ぶと楽しいという経験があり、期待をもって部屋に入ってくる。

<周りが見える>

- ・ 先生が示したものを「見えない」とみんなの前に立って見に行こうとする新入児に対し、進級児は「座らないとみんなが見えないよ」と言う。

<見本となる>

- ・ 教師が指示したことに対して、進級児がしているのを見て、新入児がしようとするため、教師が繰り返し言わなくてもできる。

<自分で考える>

- ・ オタマジャクシに興味をもち、何を食べるのか話題になった次の日、進級児2名が家で調べてきて、自分たちで考えて餌を準備しようとしていた。また、進級児はザリガニ釣りの道具も自分から持って来て遊び始める。新入児は、それを見て、持ってくるようになる。

考察

令和4年6月10日（金） 園内研究会

講師：びわこ学院大学 中井 清津子 教授（※） より

- ・ 進級児は、人間関係ができており、つながりが強いため、友達の話の聞いたりお互いに響いたりする。
- ・ 昨年度、友達と遊ぶことを楽しんでいて、今年度、そこから1歩踏み込んだ学びの段階が違ってきている。
- ・ 葛藤も進級児同士ではあまりないが、進級児と新入児が葛藤経験をしている姿がある。自分の思いがあり、それを友達に発信しているからこそその姿である。
- ・ 進級児は、昨年度は自分のことで精いっぱいだったのが、去年を経験していることで一緒に喜ぶということもでき始めている。

※ 中井 清津子 教授 主なプロフィール

滋賀大学教育学部附属幼稚園副園長 多くの大学で非常勤講師を務める

平成26年度より 相愛大学人間発達学部子ども発達学科 教授

令和2年度 芦屋市就学前研修会で講師を務める

テーマ 「3歳児の発達を支える環境や援助」

令和2年度より 岩園幼稚園 園内研究会 公開研究会等で、講師として指導する

令和4年度より びわこ学院大学 教育福祉学部 教授

(3) 令和3年度の4歳児と令和4年度の新入4歳児（2年保育児）との比較

【BとDの比較】

対象となる幼児、また評価する教師が違うこともあり、誤差はあるが、そのなかでも、「友達関係」「道徳性」「挨拶」の項目では、令和4年度の新入4歳児が令和3年度の4歳児より成長が見られる。

同じクラスに生活の見本となる友達、真似ができる友達の存在により、道徳性や挨拶などは大きく伸びると考えられる。友達関係も、関係ができている中に入る安心感、心地よさがあり、楽しそうに遊んでいると入りやすくなる。

同い年の子どもと生活することが、子どもにとって伸びようとする力を引き出すことにつながる。3歳児保育を受けた4歳児がいることで、新4歳の発達も助長されると考えられる。

(4) 4歳児、5歳児の育ちへの影響

〈事例1〉3歳児に見られると張り切る4歳児

- ・ 運動会のリズム表現、劇遊びなど、保護者に見てもらう前に子ども同士で見せ合う場がある。
- ・ 4歳児の遊びを3歳児が見に来ると、4歳児がとても張り切って見せようとする。

〈事例2〉3歳児には優しく、5歳児には甘える4歳児

- ・ 4歳児は、3歳児には優しくお世話をしようとする。3歳児が足を洗い拭いた雑巾を新しい雑巾入れのかごに入れたところ、「そこじゃないよ」と言って取り出して入れなおす。
- ・ 好きな遊びの中でも「やってあげようか」、「貸してあげようか」と声を掛け、自分の道具を使われても使い終わるのを待っている。一方で、5歳児には、自分の使いたい遊具に対して「それを貸してほしいな」と甘えた様子で頼む姿が見られる。

〈事例3〉3歳児と4歳児のお世話をする5歳児

- ・ 5歳児が、初めての体位測定をする3歳児、4歳児の手伝いをする。衣服の着脱やたたみ方、身長計、体重計の乗り方などを教えたり、その後、一緒に絵本を見たりする。4歳児には、様子を見て、出来そうなところは手を出さない。3歳児は、してもらえんと思っっているので丁寧にしてあげる。

考 察

4歳児にとって、3歳児の存在が意欲につながっている。また、3歳児がいることで、自分たちは、「お姉さん、お兄さん」と思って生活している。優しく教えてあげたり、お世話をしあげたりすることができる3歳児と、憧れであり、甘えられる存在の5歳児と両方の存在がいることで、豊かな経験ができる。

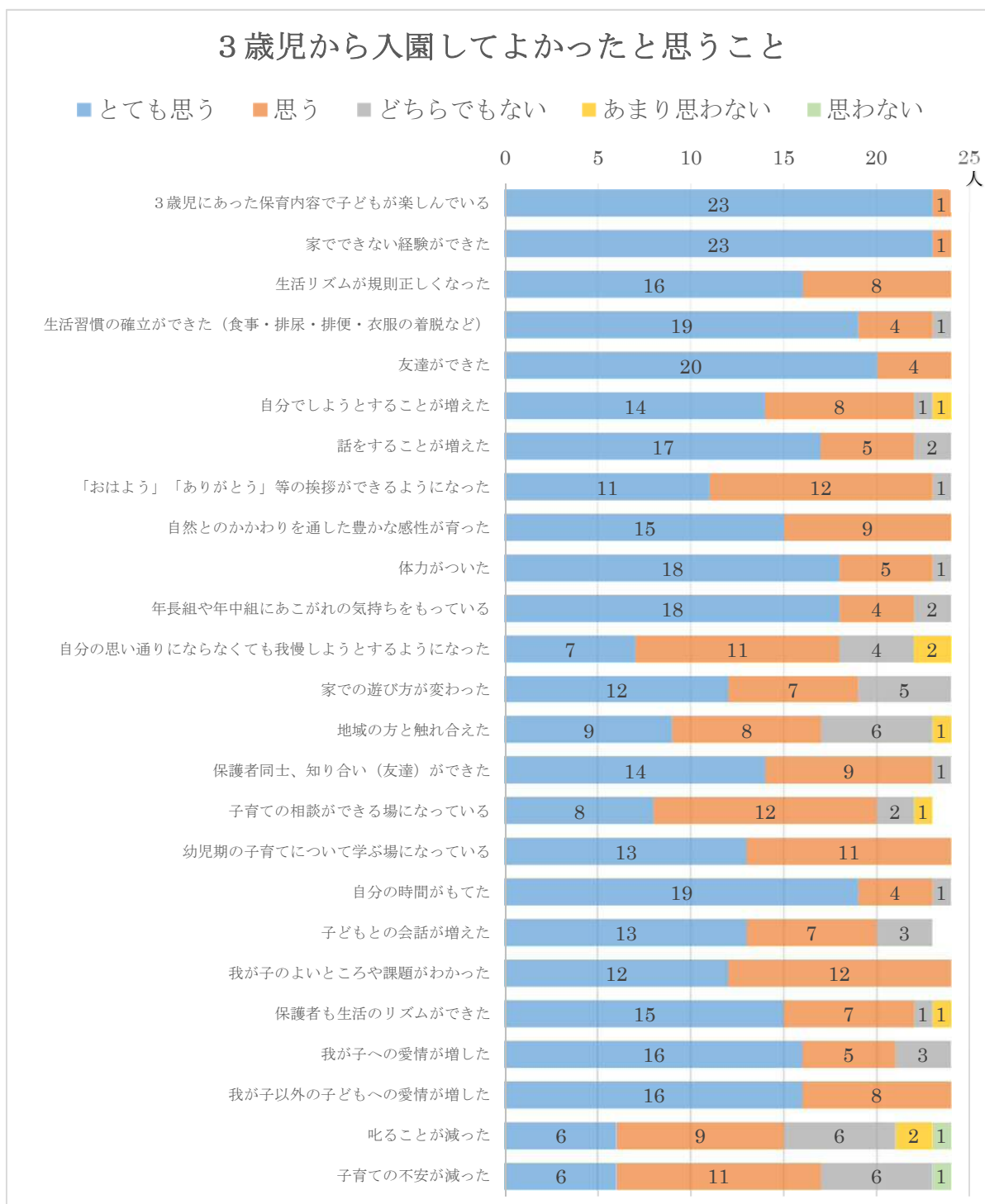
5歳児は、相手によって、対応を無意識に変えている。3歳児がいることで、5歳の経験が「年下の子どもに思いやりをもってかかわる」ことに加え、「相手に合わせて対応や手伝いの仕方を変える」という多様性への対応が身につく機会となっている。



3 保護者アンケートの結果

(1) 令和3年度末アンケートより

アンケート結果により、子どもにとっても、保護者にとっても3歳児保育について、一定の評価が得られた。



自由記述

- ① 子どもについて、3歳児から入園してよかったと思うこと
- ・ 同年代の友達ができた。
 - ・ 同学年の友達と交流ができています。
 - ・ 友達と仲良く遊べるようになった。
 - ・ 男女関係なく、色々な友達と接することができています。
 - ・ 先生やお友達との関わりを通して、社会性が身についた。
 - ・ 3歳の早いうちから、様々な人との交流をもち、刺激を受け、色々なことを考えられる機会が持てた。
 - ・ 友達が単なる友達ではなく、絆を深めた仲間となれたことは、様々な状況をみんなで乗り越えられるのだと早い段階で気付けたと思う。
 - ・ 人との関わりや外出の機会が減っていたので、入園させて良かった。
 - ・ 社会とのつながりがもてた。(家以外の場所で母親がいなくても安心して楽しく過ごすことができるようになった)
 - ・ 早くに集団生活を経験でき、色々な友達と接することで学びが増えた。
 - ・ 集団生活で、ルールを守ることの大切さを学び、思いやりの気持ちをもつことができた。
 - ・ 自分はいくらでも相手が嫌なことがあることを本人なりに考えようとしていて、人を思いやる気持ちが幼いながらも育まれていることを感じる。
 - ・ 早くから友達との関わりがもててよかった。
 - ・ 今まで、同じ学年の子と遊ぶ機会が少なく、公園とかに他のお友達がいると嫌がって行こうとしなかったが、今では関わり方がわかってきたのか、嫌がることなく行けるようになった。
 - ・ 人見知りがなくなり、だれとでも少しずつ話せるようになった。
 - ・ 言葉が増えた。
 - ・ 話せるようになった。
 - ・ 色々なことに興味をもつようになった。
 - ・ 様々な体験ができた。
 - ・ 生活面での自立が見られる。
 - ・ 自立心が芽生えた。
 - ・ 自分の身の周りのこと（トイレ等）を進んでできるようになり、親の不安感がなくなった。
 - ・ 新しい環境での順応力がついた。
 - ・ しっかりしてきて、我慢できるようになった。
 - ・ 上の学年の子どもの真似をするなど、吸収していることを感じる。
 - ・ トイレトレーニングがスムーズにできた。

- ・生活リズムができて、早寝早起きができるようになった。
- ・弟に優しくできるようになった。
- ・幼稚園のことを、家で嬉しそうに話したり歌ったりする。
- ・家でできない経験ができた。
- ・行事や誕生日会などで子どもがわくわく楽しんでいる。
- ・季節の行事、伝統行事など（おもちつき・プール遊びなど）ができた。
- ・規則正しい生活になり、テレビを見る時間が減った。
- ・自然との関わりを通して豊かな感性が育った。

② 3歳から入園して困ったこと

- ・家では甘えて、自分でせず親にやらせようとする。
- ・体力がないからか登園時ぐずることがあった。
- ・1学期、朝起こすのが大変だった。
- ・朝、支度がなかなかできない。
- ・言葉が遅く友達を傷つけてしまった。
- ・入園当初は、言葉でのコミュニケーションがまだ上手にとれないためか、友達に押された、叩かれたなど話していた。
- ・トイレがうまくできず下着を汚してきた。
- ・喧嘩をしたとき、相手の親に気を遣う。

③ 保護者の立場でよかったこと

- ・先生方から、年齢に合った声掛けや接し方が学べた。
- ・我が子のよいところや課題がわかった。
- ・子どもが毎日生き生きと嬉しそうに通う姿がうれしい。
- ・離れることで親も子も余裕が生まれた。
- ・下の子との時間が持てて助かった。
- ・他の保護者の方と話せて気分転換になる。
- ・自分の時間が持ててよかった。

④ 3歳児保育についての感想

- ・伸び伸びとした遊びを中心とした保育がよかった。3学期の劇遊びでは頑張りが伝わってきた。これからも丁寧な指導が継続されるとよいと思う。
- ・異年齢との関わりで楽しさや学びがたくさんあった。
- ・幼稚園の遊びを家でやるなど、コミュニケーションが増えた。3学期には友達の話も増え、同じ年齢の友達ができて本当に良かった。本人も親も成長できた1年だった。早く全園での3歳児保育が始まるように願っている。

- ・ たくさんの経験ができ、親も子も成長できた。今後も3歳児保育を継続させてほしい。
- ・ 良い点として1年の感想を挙げます。「生活リズムが整うこと」、「子ども同士のつながりが生まれること」、「他の保護者の方と話せて気分転換になること」、「先生方から見えてこなかった我が子の特徴を教えられたこと」、「先生方から子どもの年齢に合った声掛けや接し方を教えてもらったこと、先生方の接し方から見て学べたこと」
- ・ 3歳からの保育に入ることができて本当によかった。色々な体験をして、世界が広がったみたいに感じる。お友達とも話ができるようになり、弟に優しくしてくれる姿を見るとよかったなと思う。また下の子との時間がゆっくり持てて助かった。ぜひ、芦屋のすべての幼稚園で3歳児保育をしてください。
- ・ 小さい子同士遊んでいるのがただただ可愛い。成長が早いと思う。
- ・ 先生や友達を見て「自分も」と本人が取り組んでくれていたので、親としてマイナスな気持ちが少なくなったと思う。
- ・ たくさんの気付き、楽しみを与えてもらった。
- ・ 何より子どもがとても楽しそうで、日々成長がより感じられるようになってよかった。先生方もとてもよくみてくださり、とても感謝している。
- ・ 言葉を使ったコミュニケーションもとれるようになった。同年代の友達や先生と一緒に遊んだり、規則を守った生活を送ることで、成長にもよい影響がたくさんあると感じた。子どもが毎日生き生きと園に通う姿がうれしい。
- ・ 言葉の数がとても増えた。歌や手遊びもとてもたくさん覚えられるようになった。
- ・ 早くから集団生活を経験できてよかった。
- ・ 初めは3歳なのに大丈夫かと思っていたが、3歳でも立派な社会の一員だと感じるようになった。
- ・ 3歳から家庭ではできない経験をすることで、たくさんの感情が芽生えてよかった。
- ・ 3歳児の幼稚園教育は、子どもにとっても親にとってもプラスになることが多い。
- ・ 親にたくさんの楽しみ、気付きを与えてくれた。
- ・ 親子ともども多くの学びがあった。そして、先生たちのお陰で親子ともども成長できた。
- ・ 3歳から入園できて大変よかった。
- ・ 3歳児保育は、家庭だけでは与えられないものがたくさんあり、実際通ってみて、この1年間の成長はとてもありがたいと感じた。

4 市内の教育・保育施設との連携

3歳児保育を行うことで、3歳児の発達に適した環境構成や援助などについて、市内のすべての就学前教育・保育施設の教諭、保育教諭、保育士と共に、学び合う機会が持てた。

また、3歳児の環境を見直すことで、4歳児、5歳児に適した環境についても考える機会となり、季節や発達に応じて、環境の見直しを細やかに行うようになった。

令和3年度 3歳児に係る研究会・研修会・報告会

日時	テーマ・内容・講師	参加者・人数
『3歳児参観』 5月14日・18日・ 19日・24日・ 28日・31日	「3歳児の幼児理解と適した環境、援助について」 3歳児クラスの参観 幼児の姿の読み取りや環境、援助について紙面にて提出	市立幼稚園 合計10名 (緊急事態宣言中のため、1日1人～2人に絞って参観)
『公開研究会』 5月26日 9:15～16:45	「豊かに感じ、たくましく育ち合う幼児をめざして」 ～「トキメキ」「ヒラメキ」を感じる環境について考える～ 公開保育 3歳児 みかん組 9:15～10:15 研究協議 指導助言 15:15～16:45 講師 相愛大学 教授 中井 清津子 氏	市立幼稚園 8名 (緊急事態宣言中のため、参加人数をしばって開催)
『3歳児研修会』 7月16日 15:00～16:45	「こころとからだを弾ませて」 講話・実技 ～3歳児の発達と音楽遊びについて～ 講師 清川 利恵子 (リトミック講師)	市立幼稚園 12名 市立認定こども園・保育所 3名 私立幼稚園・認定こども園・保育園 6名 合計 21名
『保育参観・懇談』 11月4日・8日・ 12日	「3歳児の学びと適した環境や援助を考える」 3歳児クラスの参観 その後園長に質疑応答 幼児の学びや環境、援助について紙面にて提出	市立認定こども園 7名 市立保育所 5名 合計 12名
『3歳児報告会』 3月17日 15:00～16:45	実践報告 『3歳児保育の取組より』 ～3歳児から見えてきた、幼児教育で大切にしたいこと～ 報告者 芦屋市立岩園幼稚園 中塚 景子 園長 3歳児みかん組 担任 杉谷 奈央子 教諭	教育委員会 10名 市立幼稚園 25名 市立認定こども園 5名 市立保育所 3名 合計 43名

5 特別支援教育の取組

市立幼稚園では、特別な支援を要する幼児に対して、それぞれの状況に応じて、加配教諭・支援員・看護師を配置している。クラスの中で、一人ひとりに応じた支援を受けながら、一緒に保育を受けることで、大きな成長が見られている。

岩園幼稚園においても、3歳からの特別支援教育が始まったことで、これまで培ってきたインクルーシブ教育の理念を基に、次のようなことを大切に取組んだ。

- ・ 3歳から集団生活の中に入ることで、その子にとっての成長が助長される。
- ・ 特別な支援を要する子も、3歳から地域の幼稚園に通うことで、地域の友達ができ、地域で育っていく。
- ・ 周りの幼児も、3歳から支援を要する幼児と共に育ち合うことができる。
3歳児は、友達のことを肌感覚でとらえている。また、周りの先生を見て関わり方を学び、同じように関わろうとする。
- ・ 保護者が、子どもの成長や課題について早くから知ることができ、その子に適した接し方について学べる。

6 3歳児保育の試験的实施を通して

3歳児保育の試験的实施により、「3歳児」についての幼児理解が深まった。

3歳児は、自分だけの世界から、少しずつ周りの世界に興味・関心が広がり、人の関わりが生まれ、探求心や意欲が芽生えていく。そのため、できるようになることを急いだり、教えたりするのではなく、それぞれの思いに添って、自分が納得するまで繰り返し遊びを楽しめるような環境や援助が大切であることがわかった。

このような発達にふさわしい保育を受けることにより、幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や、これからの世の中を生きていくために大切だとされる、好奇心や意欲、思いやり、粘り強さなど「非認知能力」が育っていくと考えられる。

岩園幼稚園では、そのための環境構成や援助について、日々の保育の中で、幼児の姿から丁寧に見直し、考え、研究を進めていった。それは、3歳児だけでなく、4歳児、5歳児にとってのふさわしい環境構成の見直しにつながり、他の市立幼稚園への発信へとつながった。

コロナ禍でなかなか研究会や参観ができないなか、市立幼稚園、認定こども園、保育所が、日を分けて参観し、懇談や書面で意見交流を行った。意見では、「自分で遊びを選んだり楽しんだりできる環境があり、意欲や主体性につながっている」、「ゆったりとした時間の流れの中で思う存分楽しんでいる」、「毎日の保育がつながっている」など参加した教員からも多くの気付きがあがってきた。

また、3歳児研修会は、私立の幼稚園、認定こども園、保育園も参加し、同じテーマを一緒に学ぶことができた。

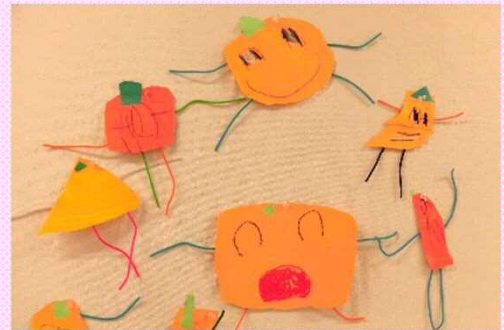
市立幼稚園に求められる役割の一つとして、市内の幼児教育のセンター的役割があげられる。岩園幼稚園の3歳児保育の実践で得られた知見を、市内すべての就学前教育・保育施設に向けて発信し、これまで以上に質の高い教育、保育の提供ができるよう、市立幼稚園が幼児教育の中核となり、けん引していかねばならないと認識している。

<ダイジェスト版>

芦屋市立岩園幼稚園

3歳児保育の取組より

～3歳児ってこんなにおもしろい!～



令和4年8月
芦屋市教育委員会

待ちに待った3歳児保育

3歳児保育が始まりました。ところが…



入園当初…

- ・ 着替えや身の回りの始末に時間がかかってすぐにお片付けの時間になってしまう…！
- ・ 「イチゴの絵をかこう」としても絵の具遊びになってしまう…！
- ・ オムツの子が多くてトイレの指導ができない…！
- ・ 絵本を読む時もなかなか気持ちが集まらない…！
- ・ 「さあ今からみんなで遊ぼう！」という時に疲れて遊べない子が…！



そこで…

個々に寄り添う

- ・ 「好きな遊び」の時間を長くとりゆったりとした中でそれぞれ満足するまで遊べるように
- ・ 片付けも 急がせたり無理にさせたりせずに自分が納得して片付けられるように
- ・ 片付けの後 お部屋で寝転がる遊びを入れるなど「静」の時間を工夫
- ・ できるだけパンツにしてもらい失敗してもいい雰囲気を大切に

それぞれ興味をもったことを満足するまで 繰り返し遊ぶ



思い切り楽しむ

3歳児保育室前の遊ぶスペース



形にしようとしな

- ・ 水や泡などを使った感触・感覚遊びを大切に
- ・ 絵や制作では、過程を存分に楽しめるように



せっけん
ぬるぬる ふわふわ…

ぺたぺた
楽しいね...



もっと
コロコロ
しよう！



ダンゴムシをつくろう！



ダンゴムシ
ダンゴムシ



お父さんダンゴムシと
お母さんお兄さん...



目で見てわかる援助

- ・ ペープサート(紙人形劇)など目で見てわかるものを使うと、気持ちが集まる。



卵の中から絵本
が出てくると
みんな大喜び！

2学期になり運動参観日に向けて遊びが始まりました。

運動参観日に向けて「ゆうちゃんのみきサーシャ」のお遊びが始まったよ。

「ぼくたちも ミキサー車つくろう」色々な廃材を使って作るのがとても楽しくなりました。



すごいね！



ぼくの
ミキサー車
できたよ

遊びと行事をつなげる

リズム表現「ゆうちゃんのみきサーしゃ」の遊びより



運動参観日当日、子どもたちが作ったミキサー車を外に飾って

運動参観日のリズム表現「ゆうちゃんのみきサーしゃ」の遊びでは、自分たちで、色々な廃材を使って、ミキサー車を作ることが大好きになりました。運動参観日では、子どもたちが好きな遊びをつなげて、見てもらいました。

3歳児の砂場を変える

3歳児専用砂場で遊ぶことが大好きな子どもたち。でも、遊びがその中に限られてしまいます。砂場の周りを低くすることで、周りとの行き来をできるようにすると、遊びが広がっていきました。



3学期、初めての劇遊びです！

劇遊びでは、役があることで、言葉のやりとりを楽しむ姿が見られました。参観では、保護者も遊びに参加してもらい、お話の世界を一緒に楽しみました。

保護者も一緒に

劇遊び「ねずみのでんしゃ」の遊びより



異年齢交流

4歳児、5歳児との交流、そして、4月から同じクラスになる3歳児親子ひろば「さんさんひろば」の友達との交流をしました。好きな遊びでは、4歳児、5歳児の刺激を受け、自分たちで楽しむようになりました。



子どもたちにこんな成長がありました！

令和3年度 3歳児 みかん組 1年間の成長

<大きな成長が見られたもの>

健康

- ・ 主体性(自分から～する) ・ 身辺自立(持ち物の片付け・トイレでの排尿など)

人間関係

- ・ 先生との信頼関係 ・ 友達関係(友達と一緒に遊ぶことが楽しいと感じる、友達に思っていることを伝える)

環境

- ・ 物との関わり(色々な物に興味をもち 繰り返し使って遊ぶ)
- ・ 自然との関わり(身近な自然物や事象に興味をもち 遊びに取り入れる)
- ・ 飼育栽培(小虫と触れ合ったり 花や野菜の生長を見たりすることで心を動かす、先生と一緒に世話をする)

言葉

- ・ 聞く(友達の話や先生の話に集中して聴く)
- ・ 話す(自分から友達に話をする)
- ・ 要求する(自分がしたいことやしてほしいことを言葉で伝える)

表現

- ・ 表現活動(自分の思いを体で表現しようとする)
- ・ リズムや曲に合わせて体を動かすことが好きになる
- ・ 自分でイメージしたものを描いたり作ったりすることを楽しむ

* 人間関係、言葉、表現は絡み合いながら成長しています。

* 3歳児は、自分の世界から、友達と共に遊ぶ楽しさを感じ始めます。もっと友達に思いを伝えたいという気持ちから、言葉の力が伸びます。更に、友達との関わりの中で、「友達のうれしい気持ちや悲しい気持ちを知る」「友達との感情の行き違いを経験する」など、少しずつ相手の思いに気付くようになっていきます。



「いやだ！」「貸さない！」まずは自分の思いを出すことを大切にします。このような経験を重ねながら、次第に相手の気持ちに気付けるようになっていきます。

「お友達と一緒に 楽しいな」
2学期後半の子どもたちの様子



令和4年度 4歳児 いちご組 れもん組 新入児(2年保育児)と進級児(3年保育児)の混合クラスでスタートしました

同じクラスに進級児がいることで、新入児にとってもこんなよいことが！

友達関係



* 同じ空間で遊ぶ心地よさ

4月、進級児は昨年度の4歳児、5歳児の姿を真似て、鬼ごっこの「鬼決め」を始めました。進級児にやり方を教えてもらいながら新入児も一緒に入ります。新入児は、進級児と同じ空間でいることが心地よく、楽しい様子です。

* 協同する

進級児が新入児に「ここ持って」「手を離したらだめだよ」など持つ位置や持ち方を教えながら、4人で力を合わせて1台の机を運ぶことができました。

* みんなで遊ぼう

園庭での「好きな遊び」の後、保育室で「クラスの遊び」が始まります。先生やクラスの友達と一緒に遊ぶ楽しさを経験している進級児は、わくわくしながら部屋に入ってきます。新入児がなかなか部屋に入らず外で遊んでいると「始まるよ。入っておいでよ」と進級児が呼び掛け、新入児が入ってくるようになりました。

* ルールを守って

進級児は、おもちゃを順番交代したり一緒に使ったりします。遊びや片付けなどでも、ルールの意味が分かり、守ろうとします。

* 周りが見える

先生が示したものを「見えない」とみんなの前に立って見に行こうとする新入児に、進級児が「座らないとみんなが見えないよ」と声を掛けました。新入児も座ってみんなで見ることができました。

* 見本となる

教師が指示したことに対して、進級児がしているのを見て、新入児がしようとするため、教師が繰り返し言わなくてもできます。

道徳性



挨拶



* 挨拶も楽しんで

朝、園長先生が門のところで保護者と子どもたちを迎えます。みんなが登園し終わると、保育室の前を通過して子どもたちの様子を見ながら職員室に戻ります。その時、保育室の中から進級児が出てきて、「園長先生、さっき(よそのお母さんと)お話してたから、僕と挨拶してないよ」と声を掛けました。「あら！ごめんごめん。おはよう！」と園長先生が挨拶すると、それを見ていた新入児が「園長先生、ぼくも挨拶してないよ」とにっこり。「あら！ごめんね。おはよう！」と挨拶を返してもらい満足そうな新入児。それ以来、わざわざ「園長先生、僕と挨拶してないよ」と言う子が増えたのです。

人と関わる楽しさを知っていて、挨拶も遊びのように楽しめる余裕が進級児にはあります。その進級児を見て、周りの子どもたちも楽しんで挨拶をするようになりました。

3歳児がいることで4歳児、5歳児にもこんな育ちが！

<事例 1> 3歳児に見られると張り切る4歳児

運動会のリズム表現や劇遊び等、保護者に見てもらう前に子ども同士で見合います。4歳児の遊びを3歳児が見に来ると、4歳児がとても張り切っていつも以上に頑張る姿が見られます。「すごいね」と3歳児に言われる**満足感**。3歳児の存在が、4歳児の**意欲**につながっています。

<事例 2> 3歳児には優しく、5歳児には甘える4歳児

4歳児は、3歳児には「やってあげようか」「貸してあげる」と声を掛け、自分の道具(例えばザリガニ釣りの道具)を使われても、使い終わるのを待っています。一方で、5歳児には、自分の使いたい遊具に対して「それ、貸してほしいな」と甘えた様子で頼んでいるのです。

4歳児にとって、優しくしたり教えられたりできる3歳児の存在と、憧れたり甘えたりできる5歳児の存在の両方があることで、**豊かな経験**ができます。3歳児と接することで、**思いやりの気持ち**や、自分が3歳児の**役に立った**という喜びや**自信、自己肯定感**が芽生えます。



<事例 3> 3歳児と4歳児のお世話をする5歳児

5歳児は、3歳児と4歳児の体位測定のお手伝いをします。4歳児はできることも多いので、できそうなことは手伝わず見守っています。3歳児は、初めから全てやってもらうつもりでいますので、全てやってあげます。どのように手伝うかは、先生が教えなくても、自分たちで判断しているのです。

年下の子どもに、**思いやり**をもってかかわることに加え、相手に合わせて対応や手伝いの仕方考えるという**多様性に対応する力**が身に付いています。

<事例 4> 3歳児に手作りのメダルをプレゼントする5歳児「メダル何色がいい？」

5月の「なかよし運動会」で、5歳児が、3歳児に色紙でメダルをごほうびに作ってあげることになりました。すると、作る前にわざわざ3歳児の部屋に色紙を持って、「どの色で作ってほしい？」と一人ひとりに尋ねにやってきたのです。「もらえるだけでうれしいのに、どうしてわざわざ好きな色まで聞いてくれるの？」と不思議に思った3歳児の担任が尋ねたそうです。すると・・・体位測定のお手伝いをした時に、「嫌なものは嫌」とはっきり示す3歳児の姿を目の当たりにして、自分の好きな色のメダルでなければ、「この色いらない」「いやだ！ あっちがいい」と言われそうだと思ったようです。何色がいいかを尋ねる時も、実際に色紙があった方が分かりやすいと考え、持って来ました。

担任の先生からは何も言うておらず、「3歳児がいることで、こんなに自分たちで考えるようになるのだな」と、驚いていました。

この実践から、3歳児がいることで、**相手を理解し、対応を考える力**がついていることが分かります。

「がんばったね」5歳児からメダルをかけてもらうみかん組の子どもたち



3歳児保育を通して、4歳児、5歳児にも、生きる力として大切な非認知能力が育っています！

非認知能力

自信

意欲

役に立った
という喜び

自己肯定感



満足感

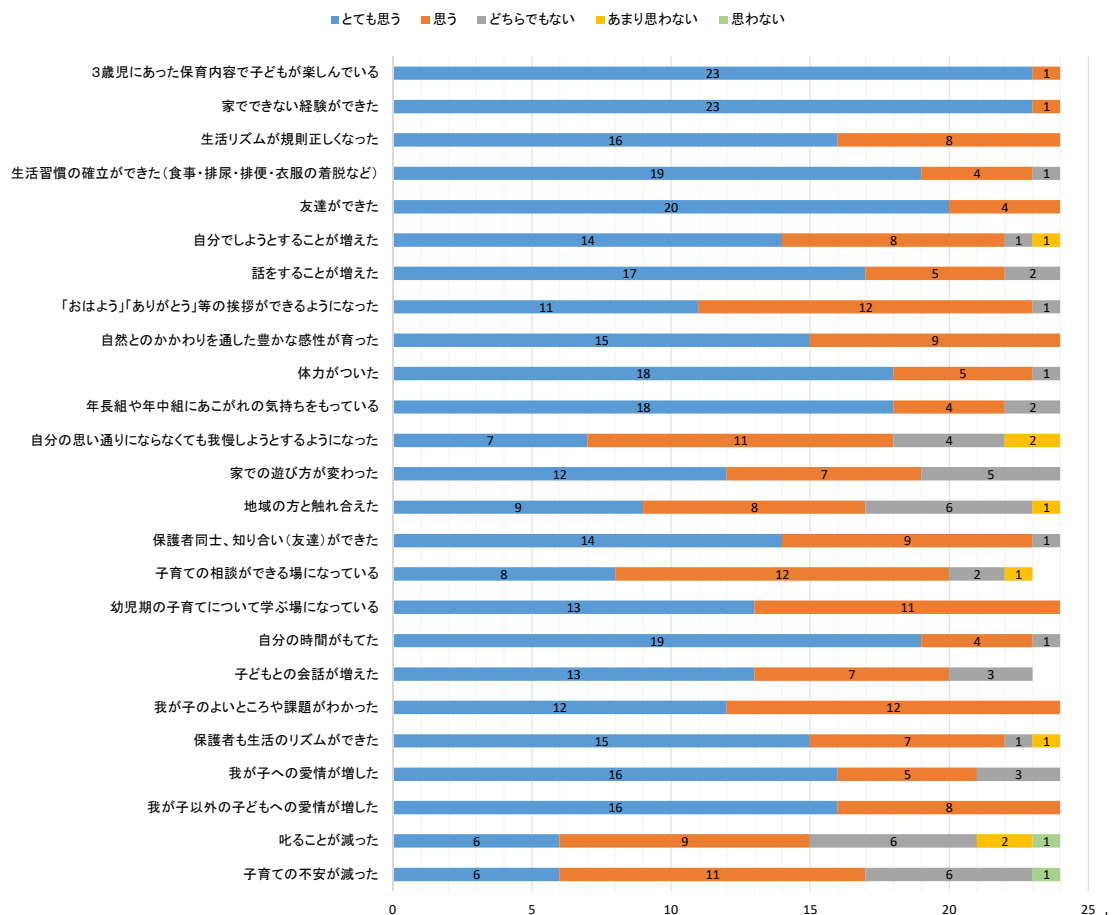
多様性に
対応する力

思いやり

相手の気持ち
を想像する力

保護者アンケートの結果(令和3年度末アンケートより)

3歳児から入園してよかったと思うこと



保護者アンケートの結果(令和3年度末アンケート自由記述より)

子どもについて、3歳児から入園してよかったと思うこと

同年代の**友達**ができた 友達と仲良く遊べるようになった 男女関係なく遊べる **社会性**が身に付いた 様々な人との交流で**刺激**を受け色々なことを考えられる機会がもてた **絆を深めた友達**ができ様々な状況をみんなで乗り越えられることに気付けた **社会とのつながり**がもてた(家以外でも安心して楽しく過ごせる)集団生活で色々な友達と接することで**学び**が増えた 集団生活で**ルール**を守ることの大切さを学び、思いやりの気持ちをもつことができた 自分はよくても相手が嫌なことがあることを本人なりに考えていて**思いやる気持ち**が育まれている 知らない友達がいても入って行こうとするようになった 人見知りがなくなり誰とでも話せるようになった **言葉**が増えた 色々なことに**興味**をもつようになった **様々な体験**ができた 生活の面で**自立**が見られる 自立心が芽生えた 自分の身の回り(トイレ等)を進んでできるようになり親の不安感がなくなった 新しい環境での**順応力**がついた しっかりしてきて**我慢**できるようになった 上の学年の真似をするなど**吸収**していることを感じる トイレトレーニングがスムーズにできた 生活リズムができ**早寝早起き**ができるようになった 弟に**優しく**できるようになった 幼稚園のことを家で嬉しそうに話したり歌ったりする 家ではできない経験ができた 行事や誕生会などで子どもが**わくわく楽しんで**いる **季節の行事、伝統行事**(もちつき プールなど)ができた **規則正しい生活**になり、テレビを見る時間が減った **自然との関わり**を通して**豊かな感性**が育った

保護者の立場でよかったこと

先生方から、**年齢に合った声掛けや接し方**が学べた 我が子の**よいところや課題**が分かった 子どもが毎日生き生きと嬉しそうに通う姿がうれしい 離れることで、親も子ども**余裕**が生まれた **下の子との時間**が持てて助かった 他の保護者の方と話せて**気分転換**になる **自分の時間**が持ててよかった

3歳児についての感想

伸び伸びとした遊びを中心とした保育がよかった **異年齢との関わり**で楽しさや学びがたくさんあった 幼稚園の遊びを家でするなど、**コミュニケーションが増えた** **同じ年齢の友達**ができて本当によかった たくさんの経験で、**親も子ども成長**できた 3歳児保育を継続させてほしい **生活リズムが整った** **子ども同士のつながり**が生まれた **我が子の特徴**を教えてもらえる **年齢にあった声掛けや接し方**を教えてもらえた **先生方の接し方**から見て**学べた** **世界が広がった** 弟に優しくなった ぜひ芦屋のすべての幼稚園で3歳児保育をしてほしい 先生や友達を見て**自分から取り組む**ようになり、親としてマイナスな気持ちが少なくなった たくさんの気付きや楽しみをもらった 何より子どもが楽しそうに日々**成長がより感じられた** 先生方がとてもよくみてくれ**感謝**している **言葉**を使ったコミュニケーションがとれるようになった 成長により面がたくさんある 毎日子どもが**生き生き**と幼稚園に通う姿がうれしい **言葉が増えた** 歌や手遊びもたくさん覚えた 早くから集団生活を体験できてよかった 3歳でも立派な社会の一員だと感じるようになった 3歳から**家庭ではできない経験**をすることで、**たくさんの感情**が芽生えてよかった 子どもにとっても親にとってもプラスになることが多い 親にたくさんの楽しみや気付きを与えてくれた 親子ともども**多くの学び**があり**成長**できた 家庭では与えられないものがたくさんあり、1年の成長はありがたかった

市内の教育・保育施設との連携

3歳児保育を行うことで、3歳児の発達に適した環境構成や援助などについて、市内の就学前教育・保育施設の先生方と共に考え合う機会が持てました。

今後も、岩園幼稚園の公開研究会や、3歳児保育研修会の開催などを通して共に学び合い、芦屋の就学前の子どもたちを育てていきたいと思えます。

特別支援教育の取組

市立幼稚園では、特別な支援を要する幼児に対して、それぞれの状況に応じて、加配教諭・支援員・看護員を配置しています。クラスの中で一人ひとりに応じた支援を受けながら、一緒に保育を受けることで、大きな成長が見られています。

岩園幼稚園においても、次のようなことを大切にインクルーシブ保育について取り組みました。

- ・ 3歳児から集団生活の中に入ることで、その子にとっての成長が助長されます。
- ・ 特別な支援を要する子も、3歳児から地域の幼稚園に通うことで、地域の友達ができ、地域で育っていくことができます。
- ・ 周りの幼児も、3歳から支援を要する幼児と共に育ち合うことができます。3歳児は、友達のことを肌感覚でとらえ、また周りの先生を見て関わり方を学んでいます。
- ・ 保護者が、子どもの成長や課題について早くから知ることができ、その子に適した接し方ができます。

3歳児保育の取組を通して感じたこと

3歳児保育を通して、「3歳児」についての幼児理解が深まりました。

3歳児は、自分だけの世界から、少しずつ周りの世界に興味・関心が広がり、人との関わりが生まれ、探求心や意欲が芽生えていきます。そのため、できるようになることを急いだり、教えたりするのではなく、それぞれの思いに寄り添って、自分が納得するまで繰り返し遊びを楽しめるような環境や援助が大切であることがわかりました。

このような発達にふさわしい保育を受けることにより、幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や、これからの世の中を生きていくために大切だとされる、好奇心や意欲、思いやり、粘り強さなど「非認知能力」が育っていくと考えられます。

岩園幼稚園では、そのための環境構成や援助について、日々の保育の中で、幼児の姿から丁寧に見直しました。それは、3歳児だけでなく、4歳児、5歳児にとってのふさわしい環境構成や援助を見直すきっかけとなり、他の市立幼稚園への発信へとつながりました。

3歳児がいることで、4歳児、5歳児に、年下の子どもに対する優しさや思いやりだけでなく、多様な相手に対応する力が育つことを、改めて感じました。

市立幼稚園に求められる役割の一つとして、市内の幼児教育のセンター的役割があげられます。私たちは、これからも3歳児保育についての研究を進め、その中で得られた知見を、市内すべての就学前教育・保育施設に向けて発信し、これまで以上に質の高い教育、保育の提供ができるよう、共に芦屋の子どもたちを育てていきたいと思っています。

行政区別・年齢別人口調べ

作成日付：令和4年4月4日

令和4年3月31日 現在

※現在3歳の子どもはR1年度生まれ

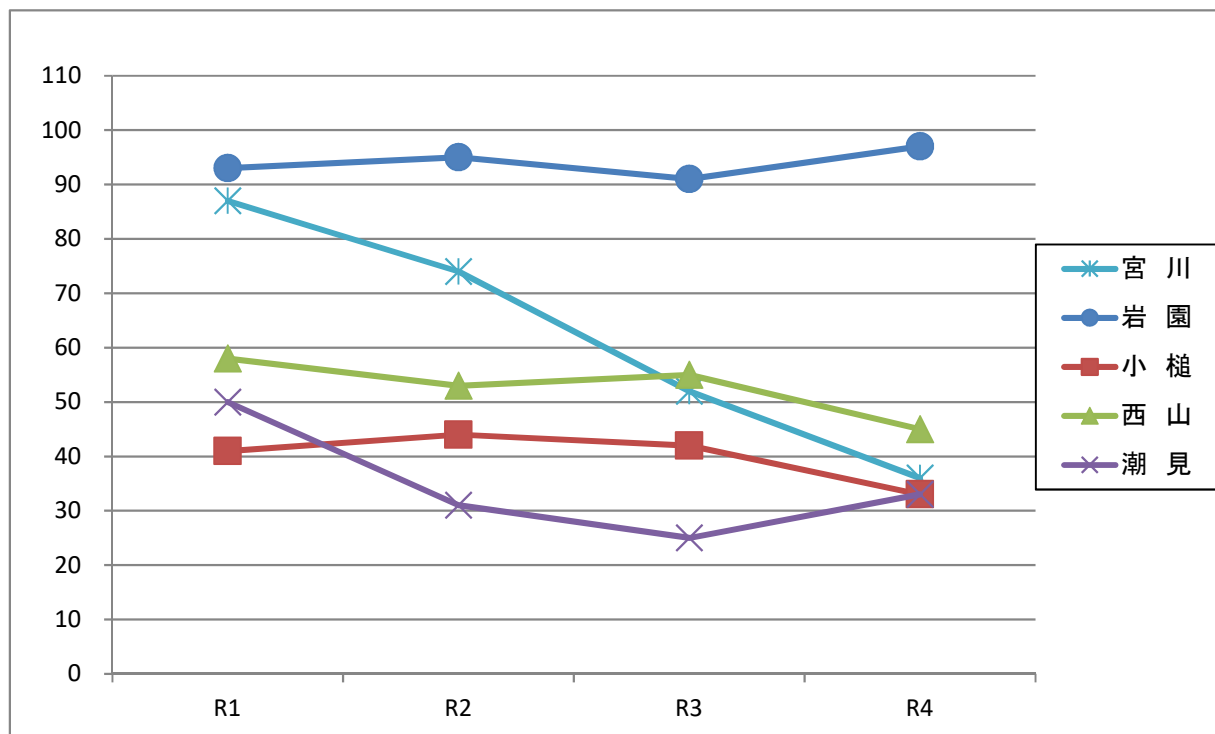
合計	年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	男	247	298	329	306	380	375	394	398	405	422	415	476
	女	255	293	310	333	355	355	391	409	425	423	386	420
	計	502	591	639	639	735	730	785	807	830	845	801	896
	年齢	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	男	425	459	498	441	472	471	457	508	460	475	419	349
	女	452	454	460	438	441	423	442	431	418	444	388	412
	計	877	913	958	879	913	894	899	939	878	919	807	761
	年齢	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
	男	330	318	242	289	278	296	309	282	291	335	343	395
	女	379	345	340	375	345	348	380	375	355	427	427	488
	計	709	663	582	664	623	644	689	657	646	762	770	883
	年齢	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
男	426	438	494	449	516	516	485	570	562	619	650	719	
女	503	525	561	563	614	645	668	673	708	745	808	913	
計	929	963	1,055	1,012	1,130	1,161	1,153	1,243	1,270	1,364	1,458	1,632	
年齢	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	
男	733	719	824	744	782	720	787	651	664	645	624	611	
女	878	956	969	894	910	944	885	713	795	825	734	717	
計	1,611	1,675	1,793	1,638	1,692	1,664	1,672	1,364	1,459	1,470	1,358	1,328	
年齢	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	
男	596	589	589	517	504	519	502	524	456	556	543	610	
女	673	690	659	642	640	634	576	607	658	628	712	732	
計	1,269	1,279	1,248	1,159	1,144	1,153	1,078	1,131	1,114	1,184	1,255	1,342	
年齢	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	
男	673	753	689	566	357	478	461	416	479	383	329	282	
女	838	933	916	720	491	620	661	659	662	540	510	446	
計	1,511	1,686	1,605	1,286	848	1,098	1,122	1,075	1,141	923	839	728	
年齢	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	
男	293	260	276	225	193	168	148	121	104	71	57	39	
女	503	492	447	401	367	323	306	253	237	174	139	113	
計	796	752	723	626	560	491	454	374	341	245	196	152	
年齢	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	
男	35	18	12	5	4	4	2	0	0	0	0	0	
女	98	76	52	32	19	20	9	9	1	0	0	0	
計	133	94	64	37	23	24	11	9	1	0	0	0	
年齢	108	109	110以上	合計									
男	0	0	0	42,941									
女	0	1	1	52,208									
計	0	1	1	95,149									

市立幼稚園の園児数の推移

園名	区分	R1	R2	R3	R4	
宮川	4歳児	41	33	18	10	
	5歳児	46	41	34	26	
	計	87	74	52	36	
岩園	3歳児			25	24	
	4歳児	53	37	26	43	
	5歳児	40	58	40	30	
	計	93	95	91	97	
小槌	4歳児	15	27	14	13	
	5歳児	26	17	28	20	
	計	41	44	42	33	
朝日ヶ丘	4歳児		閉園			
	5歳児	12				
	計	12				
西山	4歳児	18	32	21	23	
	5歳児	40	21	34	22	
	計	58	53	55	45	
伊勢	4歳児	24	12	こども園に移行		
	5歳児	43	26			
	計	67	38			
潮見	4歳児	19	9	10	20	
	5歳児	31	22	15	13	
	計	50	31	25	33	
合計	3歳児			25	24	
	4歳児	170	150	89	109	
	5歳児	238	185	151	111	
	計	408	335	265	244	

	園数	7	6	5	5
1園あたりの人数	3歳児			25	24
	4歳児	24	25	18	22
	5歳児	34	31	30	22
	計	58	56	53	49

※各年度5月1日時点の園児数



市立岩園幼稚園での3年保育の実施について

市立岩園幼稚園において、3年保育を下記のとおり実施します。

記

1 実施内容

- (1) 実施開始期日
令和5年4月1日
- (2) 学級編制
1クラスとする。
- (3) 定員
25人定員とする。

以 上